

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790200141		
法人名	社会福祉法人 心愛会		
事業所名	グループホーム ハーモニー松長		
所在地	福島県会津若松市一箕町松長5丁目11-31		
自己評価作成日	平成30年8月9日	評価結果市町村受理日	平成31年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成30年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様やご家族の想いを大切に尊厳ある生活が送れるよう支援しております。「地域に根づく」を目標に地域交流や、茶話会、松長カフェ、施設見学会など開催しております。気軽に来れる場所作りとして、ご家族様や地域の方々が気軽にお願い頂けるよう委員会が中心となり、色々な企画を計画、実行しております。また、筋力低下予防のために、毎日の機能訓練や、役割作り、そして出来る部分を多く引き出し、生きがいを感じて頂けるよう日々支援に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 地域との関わりを大切に、清掃・夏祭り・運動会等の地域行事へ積極的に利用者に参加し、事業所主催のすいか割大会・夏祭り・松長カフェ等に地域から大勢の参加があり、各種ボランティアの受け入れや保育園との交流等を通し、利用者が地域住民との交流が持てるよう支援している。また、事業所の力を活かして認知症サポーターステップアップ講座の実習受入を行う等、地域の一人としての役割も担っている。
2. 職員は利用者一人ひとりがこれまで大切にしてきた事を継続出来るよう支援しており、好きな本を読んだり、一人で部屋でテレビを見たり、編み物をする等、落ち着いて、ゆったりと自分のペースで生活している。
3. 事業所では職員の資質向上に努めており、業務を通じた指導や内部・外部研修の機会が多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で事業所独自の理念を作り、毎朝法人理念、事業所理念を全体で唱和や、会議等を通じて理念の再確認で共有を図っている。	法人の理念と地域密着型サービスの意義を反映した事業所の理念を事務所に掲げ、毎朝、申し送り時に唱和しながら職員間で共有し、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	奉仕活動、地域の夏祭り、敬老会、茶話会、松長カフェ、見学などお客様と一緒に参加している。	町内会に加入し、地域の一員として活動や行事に利用者と参加し、事業所行事(夏祭り・すいか割り大会・松長カフェ等)にも地域から参加があり、積極的に交流が行われている。また、各種ボランティアの受入や保育園との交流も行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は施設見学会を実施し、地域の方や家族の方に認知症のことで相談など分かりやすいように説明している。相談があった場合は、いつでも相談できる体制を取っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議において活動内容やサービス状況を報告し、意見、要望を受け今後のサービス向上に向け取り組んでいる。メンバーに協力頂き、避難訓練を計画している。地域の方の協力は得られていない。	運営推進会議は定期的に行われている。会議では、事業所の取り組みや運営状況を報告し、課題等について意見や助言をいただき、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設の認知症サポーターステップアップ講座の実習受け入れや施設見学等も要望があれば受け入れしている。事業所の取り組み等を伝えている。相談事などで出向き、助言等頂いている。	市の担当者へ、介護保険制度改正に伴う疑問点等を確認したり、認知症サポーターステップアップ講座の実習受入をする等、協力関係を築くように取り組んでいる。また、災害情報等も担当者からメールで届いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束予防委員会、虐待予防委員会を中心に身体拘束をしないケアや不適切ケアについて内部研修を行っている。玄関の施錠に関しては、防犯上、夜間から朝までとしている。家族にはリスクに関して説明している。	事故予防・身体拘束予防委員会が設置され、具体的な事例の検討が行われるとともに、高齢者虐待・不適切ケアチェックリストを年に2回全職員に実施し、職員会議、事業所内研修を通じ理解を深め、認識の共有を図りながら、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等で虐待防止の勉強会を行っている。ヒヤリハットを多く出すことで、予防に努め、意識高く仕事に臨んでいる。職員一人一人が虐待・不適切ケアについてアンケートを行い、防止に努めている。法人の「権利・擁護指針」を職員が見れる所に掲示している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレット等を掲示し、閲覧できるようにしている。研修等に参加し勉強できればと思っているがなかなか実現しない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書等でご本人やご家族様に分かりやすく説明をさせていただいている。他、家族の質問等については分かりやすい言葉でその都度説明している。分からない点や不安な点があれば、いつでも電話での対応もしていることを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様との会話や家族の面会時など、意見を要望を出してもらえるようにしている。また玄関にご意見ご要望記入用紙を置いている。年1回アンケートや家族会を実施して、サービス向上に努めている。運営推進会議でも意見や要望が言いやすい雰囲気作りに努めている。	家族の面会時・行事・サービス担当者会議参加時は、利用者の情報を伝え、意見を交換するよう心がけている。毎年事業所が実施する介護サービス向上のためのアンケート調査で出された意見や聞き取った要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の声かけに耳を傾け、話しやすい環境や自ら意見が言えるように努めている。随時個人的に面談や法人面談も行っている。法人にキャリアコンサルタントを配置し、悩みなど相談できる体制を整えている。新人職員には、フォローアップがある。	職員の意見や要望は職員会議・申送り・個別相談等で把握しており、管理者が集約し業務見直し等、具体的改善に活かしている。また、法人のキャリアコンサルタントが職員の悩み相談に応じたり、産休明けの職員が時間短縮で勤務出来る等、働きやすい職場環境が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、資格取得後も資格を十分活かした環境作りをしている。昇格制度もあり、職員が意欲を持ちながら働けるよう努めている。NO残業デイや3連休大作戦など法人としても取り組み、働きやすさや環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修が予定されており、職員が研修を受講できる機会がある。外部研修については積極的に参加できるような環境作りや推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、ケアマネ連絡会、外部研修やGH協議会での研修を通じ交流を行うことで、他の事業所同志でも意見交換し、サービスにつなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活歴をお聞きしながらこれまで培われてきた生活を継続できるようにその方の思いや希望をお聞きしながら安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話やすい環境作りに心がけ、十分に話をお聞きするようにしている。職員同士情報を共有し、ケアに活かせるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者と計画作成担当者が同行し、ご利用者様、ご家族様や本人のニーズを把握し、必要としている支援を検討している。できる部分を強みとし、支援するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、調理、片付け、洗濯ものたたみや台拭き等できる範囲で行っていただいている。一人一人が役割りをもって生活が送れるように支援している。お客様同士の架け橋と職員になるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事など参加して頂いて情報共有している。面会時の落ち着いた雰囲気でも過ごして頂けるよう配慮している。ご家族様にも困りごとなどないか時々お聞きしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院や病院、職員と馴染みの所へ買い物ができるように支援している。ご家族様の力もお借りしながら、途切れないよう支援に努めている。馴染みの方が来られてた際も、また気軽にきて頂けるよう声かてしている。	家族や知人等の面会の際はお茶を出し、ゆっくり寛いでもらい、居心地のいい環境づくりをしている。また、家族の協力を得ながら自宅や病院に出かける等、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士が良い関係性が築けるよう職員が間に入り架け橋となれるよう配慮している。トラブルにならないよう見守りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせや相談を受けた際にはできる限りの対応をするように努めている。終了後はなかなかその後には繋がっていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを尊重しながら支援し、情報共有している。本人から意向確認が困難な状況の時は、ご家族から生活等お聞きしたり、表情などからも読み取り本人の意向把握に努めている。	日常的な支援の中から利用者の思いや希望を把握している。また、意思表示の出来ない人には、家族からの情報をもとに利用者の表情や仕草から思いや意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入時は、情報収集し、情報共有している。その中でご本人が生活してきた環境に近い形でできるだけ支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送り時、毎月のミーティングでご利用者様の様子を話し合い情報を共有している。個別の日常生活記録やバイタル測定等にて心身状態の把握に努めている。小さな気づきを大切に情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1度のカンファレンスを行い意見交換している。ご家族様とも面会時や電話連絡で話し合いの場を設けている。	利用者・家族の意向、利用者の身体状況をもとに作成した介護計画の援助内容に即した支援を行っている。ケース検討会議では、日常的な利用者の変化や課題を出し合い対応策を検討しているが、ケース記録に援助内容の実施ごとの記録がない場合が見られた。	ケース記録には介護計画の援助内容の実施状況を記録し、記録を基にモニタリングし、ケアに反映させることが重要である。そのため個別記録の記載について検討して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアや気づき等記録に残し、またカンファレンスで情報共有している。日頃のケアや記録等から計画見直し、課題に反映できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様のニーズに応じて外泊や外出など柔軟に対応できるように支援を行っています。受診や、買い物等も柔軟に対応できるようにしている。お客様の要望や、職員のアイデアなど出来る限り対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会に属し、回覧板などで情報を共有している。地域のボランティアの方を招いたり、地域の行事にも参加をし、ご本人にとって楽しみある生活を維持できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけに病院に家族対応や、対応が難しい方については施設でも対応している。医療について不安があるようなときは同行し、内容把握や情報提供し、安心、適切な医療が受けられるよう本人や家族に寄り添うよう努めている。	家族の協力でかかりつけ医を受診している。家族が対応できない場合等は職員が対応している。精神科等の専門医の受診も対応が十分なされている。家族対応時は書面で利用者の状況を医師に伝えるほか、職員が付き添った場合は受診結果を家族に電話等で伝え、十分な連携がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調・状態の変化があれば看護師に報告し情報を申し送っている。受診の必要性などを判断し家族連絡や主治医への連絡をし、適切な医療が受けられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中退院時には計画作成担当や管理者、看護師が面会しSW・看護師等に状態を聞いて把握している。退院前にはカンファレンスを行い連携を図っている。変化が見られた際も、皆で話し合い意見交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の状態に応じて施設でできる事、できない事をその都度説明している。重度化や終末期にむけた場合の相談支援を行っている。緊急時については家族と対応について話し合い、同意を得ている。家族医療機関と連携を図り支援している。	入居時に看取り指針により重度化や終末期について事業所の方針を説明し、同意書を聴取している。重度化した場合は、再度家族と話し合い家族の希望で特養や医療機関への移行を支援している。看取りを希望する場合は、主治医と連携しながら本人、家族に寄り添い支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修や外部研修を通して緊急時対応を訓練している。委員会や看護師が中心となり、急変時の対応の説明をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中及び夜間想定避難訓練を実施し、お客様が安全に避難できるようにしている。運営推進会議参加者へ参加の協力を得ている。食料や飲料水についても備蓄している。	年間の防災・訓練計画を立て毎月訓練あるいは災害について研修をしている。今年度も運営推進会議委員の協力を得た訓練を計画中である。米、水、コンロ等災害備蓄もなされている。昨年、消防署立ち会い訓練では初動動作の徹底について課題とされる等、職員1人ひとりが対応を熟知するまでには至っていない。	事業所は小規模と職員が兼務体制にあり、職員一人ひとりが双方の避難訓練を熟知できるよう、夜間想定訓練を重ねることが望まれる。また、災害時に近隣の協力を得られる関係づくりも望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護、守秘義務の重要性を全職員が認識し、お客様の人格を尊重し、誇りやプライバシーを守れるように声掛けや対応に配慮している。委員会が中心となり確認している。	身体拘束予防委員会、虐待予防委員会を通じて声掛け等について確認している。また、年2回、全職員を対象にアンケートを実施し自己の振り返りと事業所内で見聞きした不適切なケアについて課題を洗い出し、全職員で話し合っている。トイレのドアを閉め外で待つ等プライバシー面でも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人はしたいことはできる限り希望に応えられるよう職員やご家族様と協力しながら寄り添う気持ちを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ業務優先にするのではなく、本人のペースに合わせ、臨機応変な対応ができるよう心がけている。おおまかなスケジュールはあるが本人の意思を尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し定期的にカットができるような機会を設けている。服は入浴前に一緒に洋服を選んでいく。化粧品等がなくなると職員と一緒に買い物に行き好きなものを選んでいく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	ご利用者様と一緒に野菜の下ごしらえをしたり、盛り付け等を行っていただいている。誕生日・イベント時は外食したり、行事食を提供したり、食で四季を感じる工夫をしている。	利用者は下ごしらえや盛り付け等出来る作業を職員と一緒にやっている。また、食事委員会を中心に、外でサンマを焼いたり、芋煮・外食・行事食を計画したり、おやつを目の前で調理する等食欲をそそる工夫をしている。職員も一緒に食卓を囲み楽しく、和やかに味わえるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事形態の提供をし、好き嫌いな物も把握して食事を提供している。食事量もその方に合わせて量の調整をしている。食事・水分量を記録し把握している。体重管理をし、栄養状態の確認をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと就寝前の義歯の洗浄を毎日行っている。ご利用者様の能力を見極め必要な介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。協力医として訪問歯科が定期的に診察している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態に合わせ排泄委員会が中心となり、一人一人の生活パターンや支援方法を検討し、快適な生活の支援に努めている。トイレでの排泄ができるよう対応している。	排泄委員会を中心に一人ひとりの現状や排泄パターンを話し合いトイレでの自立排泄に努めている。また、便秘を予防するためヨーグルト等食事で工夫したり、腹部マッサージで自然に排泄できるよう支援している。リハビリパンツから布パンツに戻る利用者もあり自立に向けた支援となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を取り入れたり、個々の嗜好に合った飲み物、ゼリーを提供し、便秘気味のご利用者様には毎朝ヨーグルトやオリゴ糖を提供し、排便を促す取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の楽しみの場になるように提供している。季節に応じて菖蒲湯、ゆず湯など使用し、気持ちよく入浴して頂く工夫をしている。入りがらない方については、時間や人、言葉かけを変えたりしながら対応している。足浴をし、安心して頂いてから入浴するなど不安にならないよう支援をしている。	週2～3回の入浴支援を行っている。大きいお風呂、個浴槽と2つあり、希望で友達と一緒に入浴を楽しむ利用者もいる。入浴を拒否する場合は時間や職員をかえたり声掛けを工夫している。希望があれば同性職員が対応できるようにしている。ゆず湯、しょうぶ湯等季節風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めておらず、希望される時間に休んでいただくようにしている。今まで生活してきた生活習慣に近づけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設で薬の管理をしている。薬の名前や効果については個人の処方箋にていつでも確認ができる。服薬時は飲み込むまで必ず確認している。内服薬の変更などは看護師より職員に周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持ち、お客様同士交流しながらできるように配慮している。生活歴や楽しみ事を把握し、支援することで、生きがいやりがいになれるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って散歩や買い物、ドライブに出かけている。年間行事に基づいて外出の機会を定期的に作っている。同法人施設(ケアハウス)の方と合同での日帰り旅行の予定がある。外食など楽しみを持った支援を行っている。	花見や紅葉狩り、あやめ鑑賞等、季節に応じた外出支援を行うほか仏壇の花、おやつ、本の購入等利用者の希望に対応した個別外出も対応している。また、大型バスで小規模、ケアハウスの利用者と合同の小旅行も行い楽しんでいる。気分転換も兼ね事業所周辺の散歩も日常的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際に欲しい物があつたりした時は施設でお金を立て替えて買い物の支援を行っている。個別で希望時に一緒に買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話をご利用いただき、自由に連絡がとれるようにしている。ご家族様にも気軽にご連絡頂くようお願いしている。お客様が手紙のやり取りが出来るような支援は出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室に温度計湿度計を置き、温度や湿度に配慮しながら、居心地の良い環境を提供している。お客様の作品や写真、飾り物や観葉植物、季節の草花を飾り四季を感じていただく工夫をしている。	エアコン、蓄熱暖房、加湿器等で温度や湿度を調節している。天窓もあり明るさや自然の風も取り入れ居心地よい空間となっている。自宅と変わらない雰囲気を作るため装飾を抑え、行事などの写真コーナー、観葉植物、季節の花等があり、落ち着いた共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様同士お話しする時は静かな空間で話せるよう配慮している。一人での空間も本人の意思を尊重しながら生活して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	安全面に配慮し、今まで使っていた私物を置いている。日課として毎日仏壇のお水を交換したり、お供え物や切り花を買って、毎日手を合わせ過ごされている。一緒に環境整備している。思い出の写真や飾り話の話題にしたりしている。	筆筒・仏壇・観葉植物・ぬいぐるみ・家族の写真・趣味の道具・本等、利用者のなじみのものを活かした居室づくりがされている。毎日、職員が部屋を掃除しているが可能な利用者也一緒にいき、清潔に保たれている。飾られた写真等は思い出や暮らしを聞く機会にもなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがついている。トイレの表示を記載することで自立してトイレに行けるようにしている。施設内はバリアフリーになっている。		